



農大祭・一年生と 二年生が協力して

11月11日、あいにくの雨の中、小諸キャンパスで恒例の農大祭が開かれました。1年生も応援に駆けつけ、例年以上のお客様が来校されました。

農産物販売コーナー、模擬店コーナーには長蛇の列ができ、プロジェクト研究展示コーナーも大盛況でした。

「農大アタッククイズ」で軽く頭の体操をしてもらったり、杵と臼で搗いたお餅の無料配布も行われ、お客様には充分に楽しんでいただいた1日となりました。

農大生プロジェクト 学習手法の活用を期待



農業大学校総合農学科
後援会長 山崎新太郎

今期は食の安全に対して偽装・毒物混入事件が多発し、国内のみならず流通体制を含めた見直しが迫られる事態となっています。

安全性を含めた「信用」は「品質・価格・市場投入時期」の三つに対して、日々の努力により向上し、長年培って築けるものですが、二度の事故発生により失っています。この信用という付加価値を得るには「品質・価格・市場投入時期」の特性を向上する必要がある。「改善案立案・改善案実施・実施内容の評価・標準化」といった四つのプロセスを繰り返す事で達成できます。これは正に皆さんが学んだプロジェクト学習手法の展開と繰り返すにより実現できると確信しております。

品質が高く安心な食生活を支える明るい未来創造のため、社会に羽ばたく皆さんによるプロジェクト学習手法の活用を期待します。



七月〇〜四日、二年生は北海道に産地視察研修に出かけました。北海道といえば夕張メロンが有名ですが、農産物のブランド化戦略を学びました。また、北海道の農業試験場やラベンダーで有名な富良野市のファーム富田も視察しました。視察先の選定を含め、旅行委員長として活躍した青柳翔二郎君は「特産だけあってメロンはおいしく、夕張は良かったですね。カニもたくさん食べられたし、東山動物園ではペンギンも初めて見ました。僕は北海道は二回目ですが、農業に関心を持って改めて見ると、広いし、機械や馬も大きく、本当に驚かされました」と視察印象を語ります。スケールの大き



続けて七月一八〜二〇日にかけて、「第三八回全国農業大学校交換大会」が熊本県阿蘇市で開かれました。本校から代表として参加したのは、森幸穂さんと柏木健司君。森さんは「農業大学校といつても全国一律ではなく、地域によつてそれぞれ違いがあることが興味深く、他の大学生と交流が出来たことも楽しかった」と語ります。全国の仲間と出会うことで森さんの視野は確実に広まったようです。



な北海道の大地をともに旅し、農大生としての一体感を得た二年生たち。クラーク博士の銅像を前にどんな大志を抱いたのでしょ

きついで勉強になったぞ

農家体験実習!

9月11日から10月5日まで1年生全員は恒例の現地体験実習に参加しました。朝から晩まで野菜農場で働いた学生、農家体験民宿で農家の子どもの子守りをした学生。体験は様々でしたが、農業で生計を立てているプロの生き様にどの学生も深い印象を得ました。農大ならではの体験実習。1カ月ぶりに学校に戻ってきた学生たちは日に焼けて少しだけ大人びていました。



秋の松代キャンパスは農大市一色です。二月七日、例年を上回る千人ものお客さんをお迎えし、無事、農大市が終了しました。ナガイモの掘り取り等、ぎりぎりまでがんばった実行委員長の金井翔太君は「スタートが遅かったので、大変でした。ですが、昨年よりも学生数が少ない中で、売り上げを増やすこともできたし、お客さんからの苦情もありませんでした。収穫物を皆で一緒に食べた前夜祭も楽しかったし、結果オーライではないでしょうか」と苦労の談を語ります。

「皆をまとめるのは大変だし、実行委員長は大変です。ですが、経験をしてみるのは良いことです」と後輩へのメッセージを寄せられました。

若人の集いで意見発表

2月1日長野市市民文化ホールで開催された「若人のつどい」では岩田有加さんが「部活で得たもの」と題し発表をしました。

岩田さんは「直前の方がすごく上手く、すごく緊張しました。でも、いざ大勢の前の壇上に出てみると、肝がすわりました。他の人の発表も聞け、面白かった」と感想を述べています。

キャンパスが白く染まれば、二年生は来年の小諸でのプロジェクトに向けてみな夜遅くまでがんばっています。就職への準備活動も始まり、先進地で先輩たちからもう「社会人になったら」というアドバイスも少しずつ身にしみて聞けるようです。

入学時とは見違えるように成長し、たくましくなった学生たちは小諸へと旅立つていきます



小諸キャンパスの半年

長野市で四県親善スポーツ大会開催される!



一〇月二四日の秋晴れの下、長野市ホワイトリングとオリンピックスタジアムでは、群馬県、埼玉県、新潟県を迎え、「四県親善スポーツ大会」が開催され、野球、バレーボール、バスケットボール、卓球、バドミントンの五競技で熱戦が繰り広げられました。

今年開催県ということで、学生たちが中心となって、大会実行委員会を組織し、事前の対戦表や式次第の作成から、当日の駐車場の案内、誘導、会場作り、開閉会式、競技の進行に至るまで円滑に運営を行いました。特に、体育部長の大田亮介君は特技の書道を生かし、開閉会式次第を筆と墨で書き上げました。野球会場では、ウグイス嬢を宮澤たえみさんが担当し、美しい声がオリンピックスタジアムに響き、試合を盛り上げました。

競技成績は、野球が決勝戦で新潟県と対戦。二対二の接戦の末に時間切れとなり、じゃんけんで惜しくも準優勝となりました。

バレーボールと卓球は準優勝、バドミントン、バスケットボールは三位となりました。バスケットボールは準決勝で群馬県に一点差で惜しくも敗れ、二位決定戦に回りましたが、埼玉県には快勝し昨年の雪辱を果たしました。結果として、来年度の開催県である新潟県が躍進し、三種目で優勝しましたが、学生たちは、試合の間に他県の選手たちと交流し、様々な情報を交換しながら親睦を深めていました。



プロジェクト実績発表会及び関東ブロック実績発表会が開催される

二月二一日～二二日の二日間にわたり、松代キャンパスでは「プロジェクト実績発表会」が行われました。

当日は二年生が取り組んだ四十三課題についての発表がされましたが、中にはキノア（雑穀）やアゾラ（浮き草）等、日頃あまり耳にされないユニークな作物やナガノパール、ブルースターといった目新しい作物の研究成果も発表されました。

自分の汗した体験に基づく研究だけに、誰もが自信をもって堂々と発表し、その姿は審査にこられた審査委員や先輩の発表を聞いた年生にもとても印象深かったようです。

厳正な審査の結果、最優秀賞に果樹コースの藤牧隆太君が選ばれました。藤牧君を始め発表会で上位入賞した片桐直樹君、牧田朋也君の三名が二月一七～一八日に新潟県で開催された「関東ブロックプロジェクト実績発表会」に参加し、各県代表者と交流を深めました。



春は出会いと別れの季節といわれますが、キャンパスではその感は一とおです。実家の農業を継いで就農するもの、就職するもの、他大学等へ進学するもの。それぞれが自分で選んだ進路に向けて農業大学校から旅立ってゆきます。卒業生たちの新たな門出に向けた言葉を紹介します。

農業法人に就農する飯沼亮介君は「あつと言う間に卒業を迎えました。この学校で学んだ知識を十分に活かしていきたい」と語り、同じく就農する佐原朝裕君は「農業大学校での生活を生かしながら一人前になれるよう努力したい」との言葉を寄せています。将来の県農業の大切な担い手として、大学校での経験を支えに頑張りたいと思います。

農業協同組合には九名が就職します。鎌倉光佑君は「農協職員としてガンバル」と、堀内佑介君は「農業を盛り上げたい」と、元気なコメントを寄せてくれました。農協は農業を縁の下で支える大切な機関です。素敵な職員になって欲しいと思います。

農業関連企業にも多くの学生が就職します。果樹の苗木等を生産する小町園に内定した下島良太君は「苦難もあると思うけど乗り越えて頑張ります」、食品加工業の竹内農産に決まった淀川浩朗君は「農大での経験を今後活かしていきたい」と語ります。農業は、関連する多くの産業に支えられて成り立っています。明日の農業の大切な支えの一人として

頑張ってもらいたいと思います。

流通や製造業など一般企業に内定した学生もいます。ツルヤに就職が決まった金子隆盛君は「食の安全を取り戻すべく



日々精進したい」と心強いコメントを寄せ、社会福祉法人で果樹園を担当する予定の丸山修治君は「農大での学習を活かし果樹栽培を行いたい」と述べています。

県職員に合格した片桐直樹君は「県職員として長野県農業の発展に貢献したい」とのこと。教授陣の後輩として頑張りたいと思います。

今後、他の学校への進学を予定している卒業生もいます。信州大学へは三名が編入を決めました。吉澤遥平君は「農大での経験を活かし、より専門的な知識を学びたい」、古田幸広君は「夢が現実になった。農大で学んだことを生かして、さらに頑張る」と言っています。新たなキャンパスでさらに勉学に励んでもらいたいものです。

また、農大の専門技術科・果樹研究科には七名の学生が進学します。三村有紀さんは「これからの二年間は社会に出る準備として有意義な時間になりたいです」、西村治紀君は「よりよき農業指導者になるために専門技術科で大人の階段をのほります」とのこと。しっかり二年間学んで欲しいと思います。

以上、卒業にあたって一言ずつ寄せてもらった言葉を紹介してみました。新しい生活に踏み出してゆく卒業生たちの気持ちや伝わったでしょうか。青年期の入り口に集団生活をしながら二年間農業を学んだ彼ら。それぞれに食と農の大切さや人の営みの愛おしさといったものをつかんでくれたと思います。

最後に、信濃ワインに就職する山崎桂太郎君のことを紹介しましょう。一言だけ「生きる」です。卒業生たちの今後の人生を皆さんも暖かく見守っていただくと幸いです。

平成19年度卒業生の進路状況

■就農【3名】	自営【2】、(有)ライスファーム野口
■就職【29名】	JA【9】……………グリーン長野、木曾、佐久浅間、松本ハイランド【2】、松本市、須高【2】、南信州農業関連企業【12】……………(株)大地、長野イセキ(株)【2】、(株)長野中央園芸、(株)ポテトデリカ、(株)竹内農産、(有)小町園(株)嶋屋種苗、(株)長野クボタ、(株)寿高原食品、(株)信濃ワイン、(株)デイリーフーズ(株)ツルヤ【2】、(株)ブリジストン長野販売、(株)三葉製作所、(有)賛友企画、(株)南信精機製作所
	その他企業【7】……………(株)ツルヤ【2】、(株)ブリジストン長野販売、(株)三葉製作所、(有)賛友企画、(株)南信精機製作所
	公務員【1】……………長野県職員
■進学【10名】	専門技術科【6】、果樹研究科、信州大学(編入)【3】
■その他【1名】	